



株式会社セブン&アイ・ホールディングス  
2017年2月期 第2四半期決算説明会

2016年10月7日

株式会社セブン&アイ・ホールディングス



# 2017年2月期 第2四半期業績説明

---

## 連結決算概要

●営業利益及び経常利益は上期として4期連続最高益を達成

	16/8期実績		
	金額	前期比	前期増減
グループ売上*	52,804億円	99.4%	▲297億円
営業収益	28,661億円	95.7%	▲1,288億円
営業利益	1,814億円	105.2%	+90億円
経常利益	1,826億円	107.0%	+119億円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	334億円	39.6%	▲510億円

PL為替換算レート: U.S.\$1=111.70円(前年差:8.60円 円高)

\*グループ売上: セブン-イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.における加盟店売上を含めた数値

## 特別損失内訳

	16/8期 実績		内訳
	金額	前期増減	
特別損失合計	880億円	+686億円	事業構造改革費用及びのれん償却額の計上に加え、減損損失の拡大等により増加
事業構造改革費用	102億円	+95億円	SS(91億円) IY(9億円)
減損損失	353億円	+257億円	店舗に係る減損損失の計上 IY(150億円) SS(122億円)
のれん償却額	334億円	+315億円	百貨店事業に係るのれんの減損損失 334億円
固定資産廃棄損	68億円	+12億円	SEJにおける第7次システムの導入に伴う 増加等

## 事業セグメント別営業利益

### ●コンビニエンスストア、スーパーストア、金融関連事業が増益

	16/8期 実績		
	金額	前期比	前期増減
連結営業利益	1,814億円	105.2%	+90億円
コンビニエンスストア	1,602億円	105.2%	+79億円
スーパーストア	81億円	705.2%	+70億円
百貨店 (のれん償却前)	▲18億円 (1億円)	- (8.1%)	▲9億円 (▲16億円)
フードサービス	3億円	27.6%	▲8億円
金融関連	257億円	106.9%	+16億円
通信販売	▲53億円	-	▲6億円
その他	16億円	85.3%	▲2億円
消去および当社	▲75億円	-	▲49億円

## 主要事業会社の営業利益

●セブン-イレブン・ジャパン(SEJ)と7-Eleven, Inc.(SEI)は過去最高益を達成

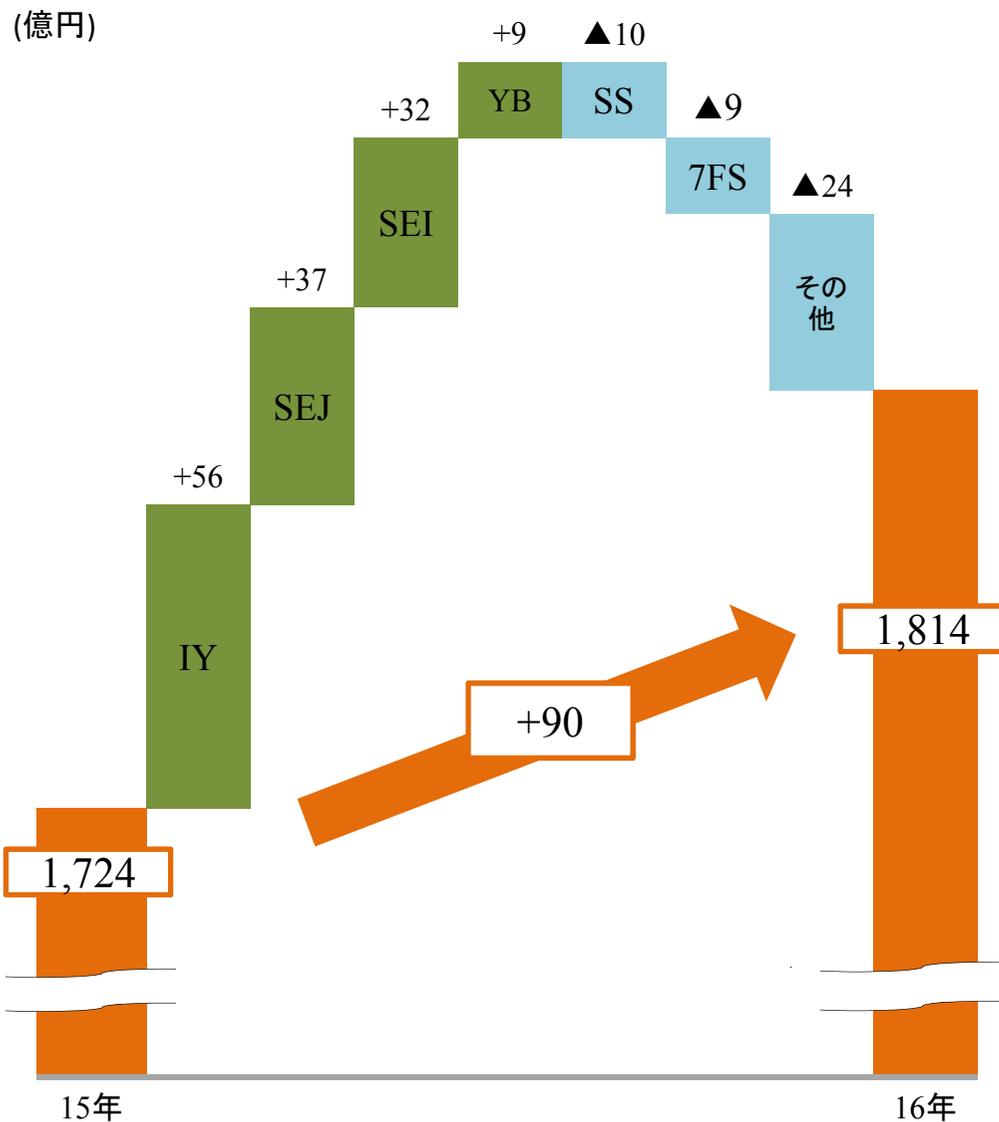
	16/8期 実績			
	金額	前期比	前期増減	既存店 伸び率
セブン-イレブン ・ジャパン	1,265億円	103.0%	+37億円	+1.6%
7-Eleven, Inc. (ドルベース)	365億円 (32,750万ドル)	109.8% (118.3%)	+32億円 (+5,058万ドル)	+3.2%
イトーヨーカ堂	▲34億円	-	+56億円	▲3.3%
ヨークベニマル (ライフフーズ込み) <sup>*1</sup>	95億円	110.5%	+9億円	+1.3% <sup>*2</sup>
そごう・西武	0.4億円	3.9%	▲10億円	▲3.7%

<sup>\*1</sup> ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社  
ライフフーズ込みの営業利益は管理上の数値

<sup>\*2</sup> 既存店伸び率はヨークベニマル単体の数値

# 連結営業利益増減要因

●主にIY・SEJ・SEIの増益により、4期連続最高益を更新



## ■主要事業会社の主な増減要因

(億円)

IY	+56	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宣伝装飾費の抑制</li> <li>・食品荒利率の改善</li> </ul>
SEJ	+37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存店売上の伸長</li> <li>・荒利率の改善</li> </ul>
SEI	+32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存店売上の伸長</li> </ul>
YB	+9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存店売上の伸長</li> <li>・荒利率の改善</li> </ul>
SS	▲10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣料品の売上不振</li> <li>・荒利率の悪化</li> </ul>
7FS	▲9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存店売上の下落</li> <li>・荒利率の悪化</li> </ul>

2 0 1 7 年 2 月 期 計 画

---

## 連結業績計画

### ●2016年9月30日に修正計画を発表

	17/2期 計画(修正後)			17/2期 計画(修正前)	
	金額	前期比	前期増減	金額	前期比
グループ売上*	105,000億円	98.1%	▲2,030億円	-	-
営業収益	57,700億円	95.4%	▲2,757億円	61,370億円	101.5%
営業利益	3,530億円	100.2%	+6億円	3,790億円	107.6%
親会社株主に 帰属する当期 純利益	800億円	49.7%	▲809億円	1,720億円	106.9%

\* グループ売上: セブン - イレブン・ジャパン及び7-Eleven, Inc.における加盟店売上を含めた数値

PL為替換算レート: 17/2期予想 115.00円から106.00円に変更(前年差: 15.10円 円高)

## 事業セグメント別営業利益計画

### ●主にスーパーストア、百貨店事業の計画を修正

	17/2期 計画(修正後)			17/2期 計画(修正前)	
	金額	前期比	前期増減	金額	前期比
連結営業利益	3,530億円	100.2%	+6億円	3,790億円	107.6%
コンビニエンスストア	3,090億円	101.6%	+48億円	3,154億円	103.7%
スーパーストア	115億円	159.0%	+42億円	253億円	349.7%
百貨店	40億円	104.4%	+1億円	82億円	214.0%
フードサービス	3億円	32.7%	▲6億円	21億円	229.0%
金融関連	520億円	104.6%	+23億円	514億円	103.4%
通信販売	▲105億円	-	▲20億円	▲105億円	-
その他	50億円	89.9%	▲5億円	46億円	82.7%
消去および当社	▲183億円	-	▲77億円	▲175億円	-

## 主要事業会社の営業利益計画

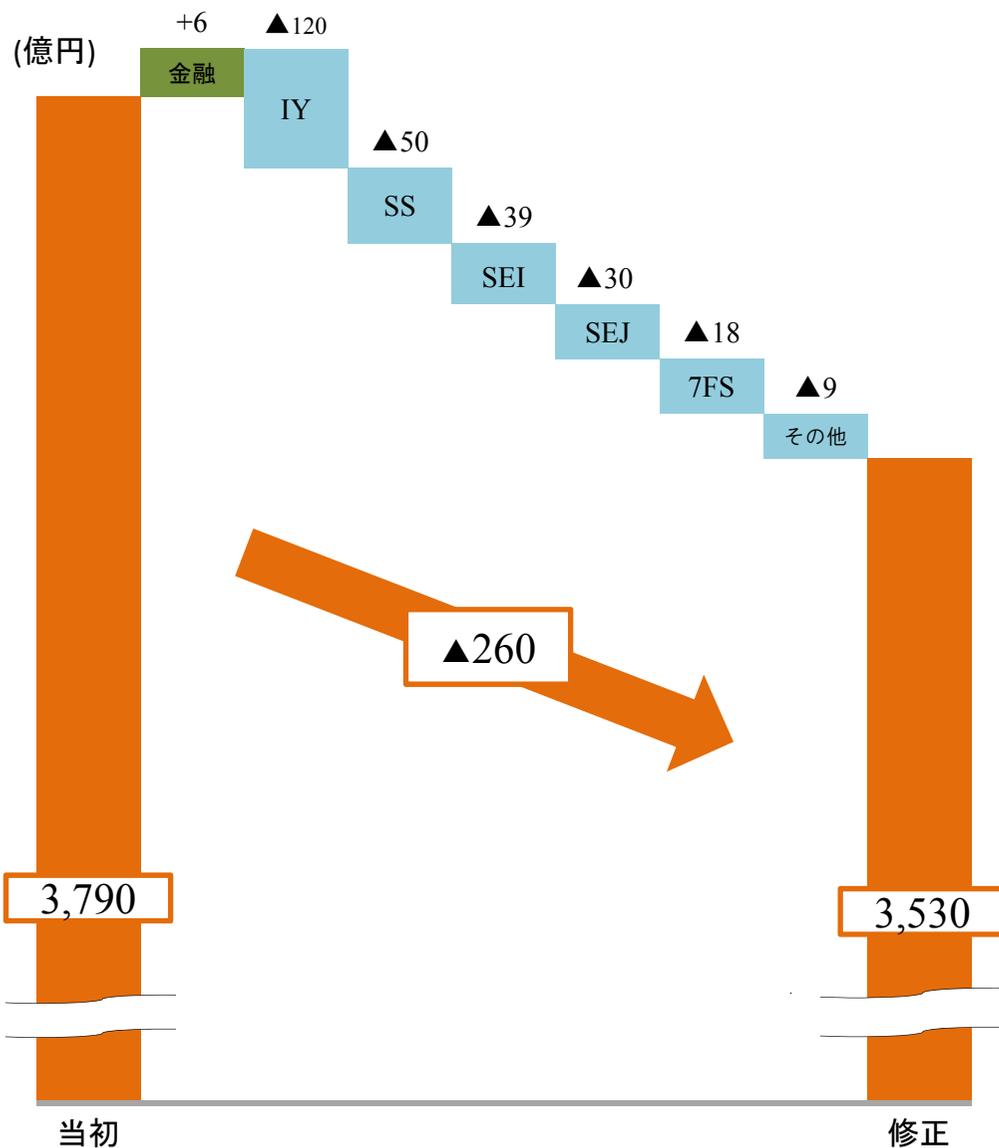
### ●ヨークベニマルを除く主要事業会社は計画を修正

	17/2期 計画(修正後)			17/2期 計画(修正前)	
	金額	前期比	前期増減	金額	前期比
セブン-イレブン・ ジャパン	2,420億円	103.0%	+69億円	2,450億円	104.2%
7-Eleven, Inc. (ドルベース)	746億円 (70,377万ドル)	96.3% (110.0%)	▲28億円 (+6,398万ドル)	785億円 (68,260万ドル)	101.3% (106.7%)
イトーヨーカ堂	▲110億円	-	+29億円	10億円	-
ヨークベニマル (ライフフーズ込み)*	186億円	104.8%	+8億円	186億円	104.8%
そごう・西武	50億円	67.5%	▲24億円	100億円	134.9%

\*ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマルの店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社

# 連結営業利益計画 増減要因

● 当初計画より▲260億円の3,530億円に修正



■ 主要事業会社における主な修正要因 (億円)

金融	+6	・ノンバンク事業が好調
IY	▲120	・衣料品の売価変更による売上総利益減
SS	▲50	・衣料品の売上不振による売上と荒利率減
SEI	▲39	・為替円高影響
SEJ	▲30	・既存店売上と荒利率を上期実勢に合わせる
7FS	▲18	・既存店売上と荒利率の落ち込み

# 補 足 資 料

# コンビニエンスストア事業：実績①

セブン - イレブン・ジャパン



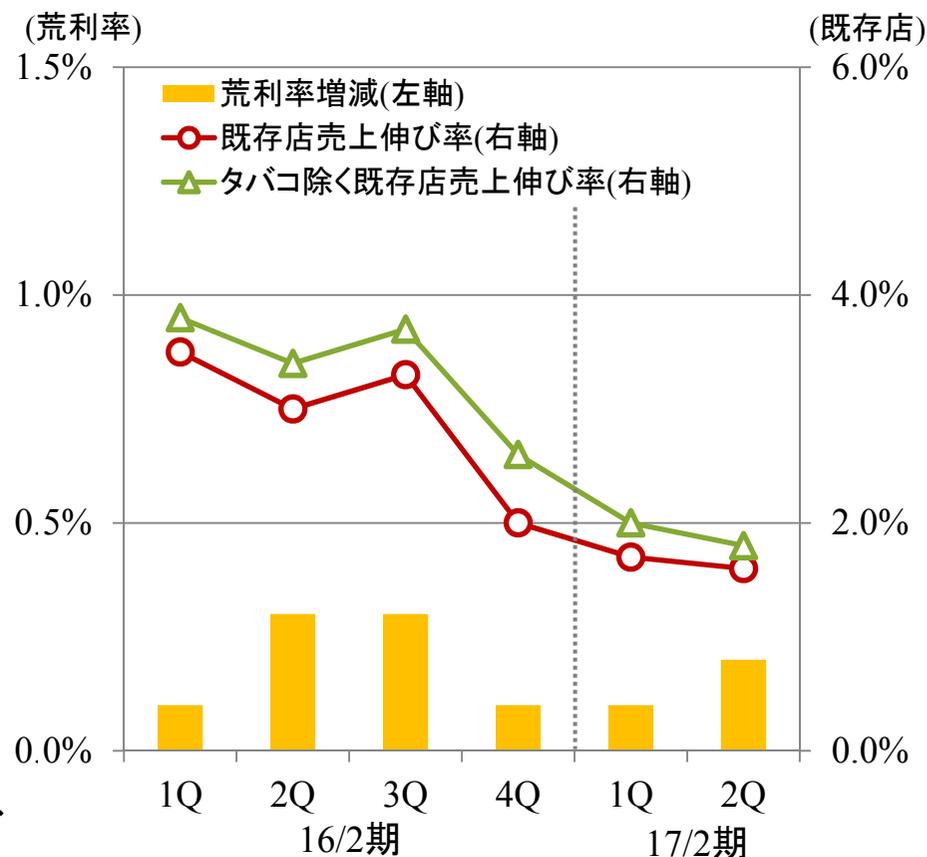
主に既存店売上のプラスにより、6期連続で過去最高益を達成

	実績	前期比
営業利益	1,265億円	103.0% +37億円
既存店売上伸び率	+1.6%	
商品荒利率	31.8%	+0.2%

## 概況

- ・既存店売上 : サンドイッチ・ペストリー等の基本カテゴリーの更なる品質向上が奏功し伸長
- ・荒利率 : フライヤー等の販売伸長による改善に加え、低荒利率のタバコの販売構成比低下等により改善
- ・営業利益 : 既存店売上の伸長と荒利率改善に加え、販管費の伸びを圧縮し、過去最高益を達成

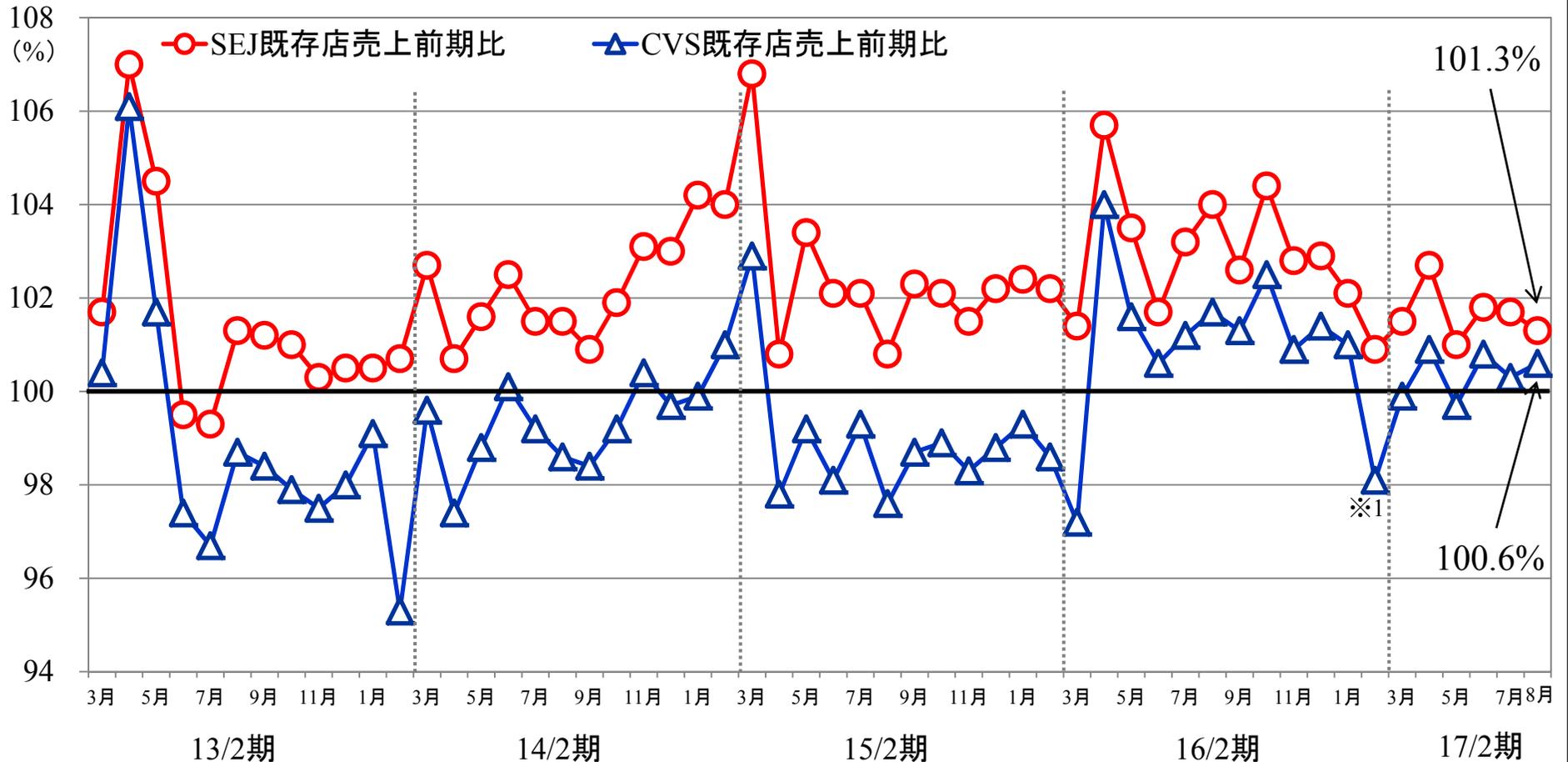
## ■ 四半期別の推移



# SEJ: 既存店売上前期比の推移

●天候のマイナス影響がありながらも、49ヶ月連続で前年を上回って推移

■SEJ既存店売上前期比とCVS既存店売上前期比の推移(日本フランチャイズチェーン協会)



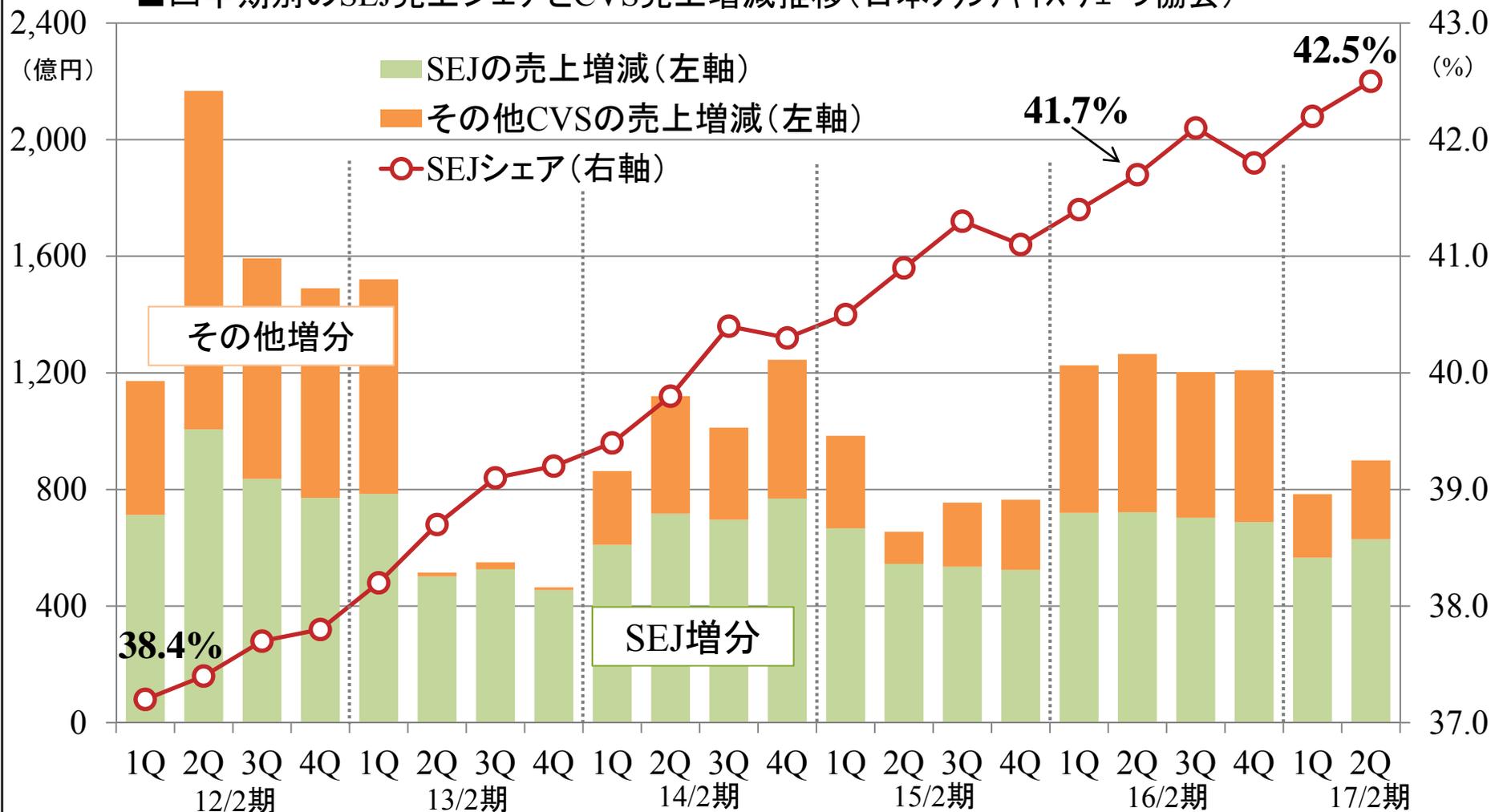
※1 CVS既存店前期比の16年2月の数値は、閏年影響を含む総売上での前期比(101.6%)から日販ベースに換算した数値を表示

(出典)JFAコンビニエンスストア統計調査月報

# SEJ: 四半期別売上シェアと売上増減の推移

● 既存店売上の伸長により、売上シェアは過去最高の42.5%に拡大

■ 四半期別のSEJ売上シェアとCVS売上増減推移(日本フランチャイズチェーン協会)



(出典)JFAコンビニエンスストア統計調査月報

# コンビニエンスストア事業：実績②

7-Eleven, Inc.



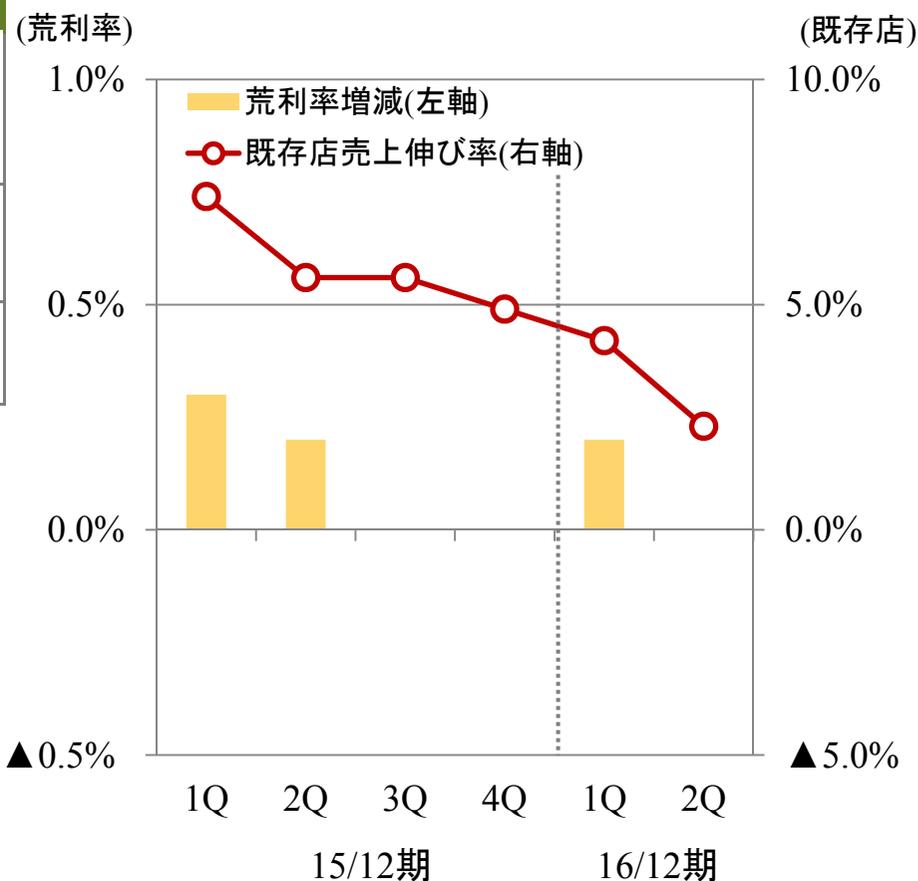
フレッシュフードの販売好調等により米国内既存店商品売上は伸長し、営業最高益更新

	実績	前期比
営業利益	365億円	109.8% +32億円
米国内既存店商品売上 伸び率(ドルベース)	+3.2%	
商品荒利率	34.9%	±0.0%

## 概況

- ・既存店売上 : ホットフードを中心としたフレッシュフードの売上が牽引し伸長
- ・荒利率 : ノンアルコール飲料の販売伸長等による改善があるも、タバコの販売伸長等により前年並み
- ・営業利益 : 円高によるマイナス影響がありながらも既存店商品売上の伸長により増益(円高影響: ▲28億円)

## ■ 四半期別の推移



# スーパーストア事業：実績①

イトーヨーカ堂

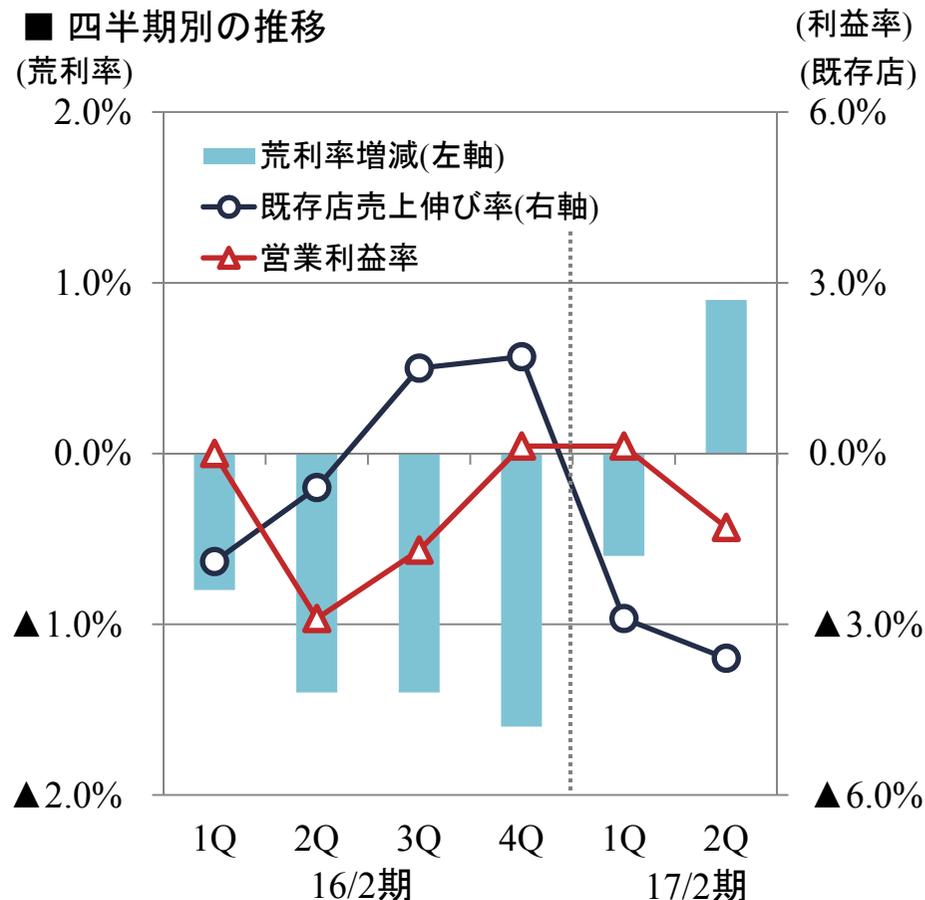


既存店売上のマイナスも、宣伝装飾費の適正化や荒利率の改善により増益

	実績	前期比
営業利益	▲34億円	- +56億円
既存店売上伸び率	▲3.3%(▲2.9%*)	
商品荒利率	28.9%	+0.1%

## 概況

- ・既存店売上 : 広告宣伝や値引き等の販売促進策を見直しことで、客数に影響しマイナス
- ・荒利率 : 食品における生鮮食品等の改善と値下げロス抑制によりプラス
- ・営業利益 : 宣伝装飾費の抑制(▲73億円)や荒利率の改善等により、既存店売上マイナスを補い、増益



\*SC合計の既存店売上伸び率

## スーパーストア事業： IY営業利益計画修正

	計画		営業利益への増減要因
	当初	修正	
売上	+1.4%	▲2.0%	▲83億円(当初:+20億→9/30:▲63億) 在庫処分に伴う値下販売の増加等
荒利率	+0.6%	▲0.6%	▲120億円(当初:+60億→9/30:▲60億) ブランドの廃止、今期末売切商品の処分
販管費削減	+1.9% 削減	+4.4% 削減	+83億円(当初:+64億→9/30:+147億) 主に宣伝装飾費の削減
営業利益計画 (前期差)	10億円 (149億円増)	▲110億円 (29億円増)	事業構造改革の推進に伴う在庫処分等、 ▲120億円の計画を追加

## スーパーストア事業：IY 下期以降の組織と収益管理の追求

### 上期実施事項

衣料品在庫の下期削減を決定(通期計画修正)

店舗に係る固定資産の減損を決定

明るい兆し :ロス削減により食品荒利率+0.4%、部門管理経営の効果も

### 営業本部の設置

販売事業部と商品事業部の連携を強化し収益追求

オペレーションサポート機能新設

店舗と本部、双方向での情報共有、店舗間格差是正

品揃え、数量決定のサポート

坪売上・荒利益率・経費率・ロス率等KPIを決めた部門管理経営体制へ移行

# スーパーストア事業：実績②

ヨークベニマル



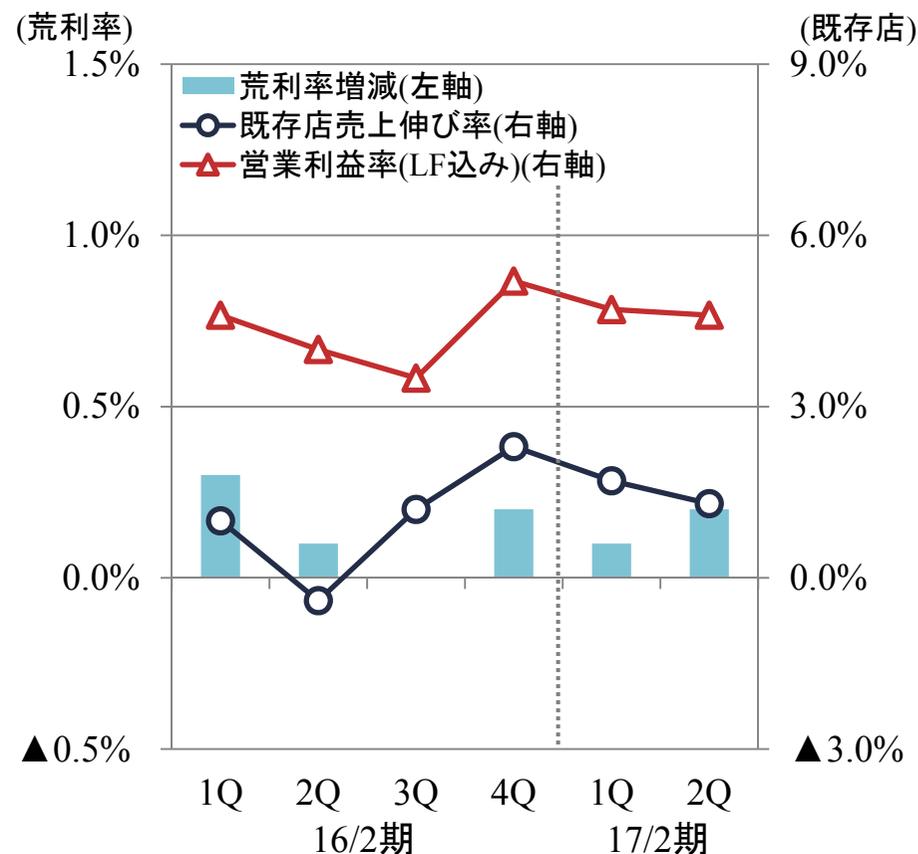
既存店売上と荒利率がともにプラス、店舗数増等に伴う経費増加を吸収し増益

	実績	前期比
営業利益	70億円	113.7% +8億円
既存店売上伸び率	+1.3%	
商品荒利率	25.7%	+0.2%
営業利益 (ライフフーズ込み)*	95億円	110.5% +9億円

## 概況

- ・既存店売上 : 食・衣・住全部門で前年プラス  
好調な食品が引き続き全体を牽引
- ・荒利率 : 食品が好調に推移し前年プラス
- ・営業利益 : 既存店売上と荒利率のプラスにより  
増益

■ 四半期別の推移



\*ライフフーズ(LF)・・・主にヨークベニマル(YB)の店舗において惣菜を製造・販売しているヨークベニマルの子会社

(注) YB+LFの営業利益は管理上の数値です。

# 百貨店事業：実績

そごう・西武



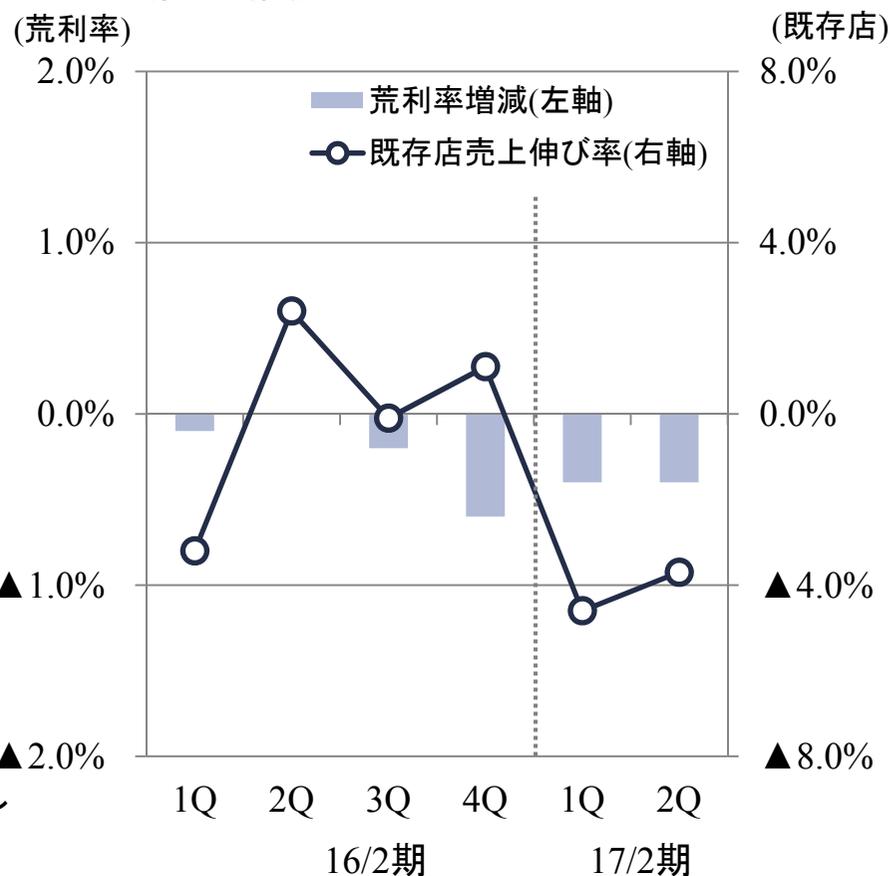
主に衣料品売上の苦戦と荒利率の悪化により減益

	実績	前期比
営業利益	0.4億円	3.9% ▲10億円
既存店売上伸び率	▲3.7%	
商品荒利率	24.2%	▲0.4%

## 概況

- ・既存店売上：婦人服などの衣料品中心に弱含んだ結果、▲1.0%マイナス
- ・荒利率：主に、売上構成比および荒利率が高い衣料品の売上減少によりマイナス
- ・営業利益：販管費は削減したものの、衣料品を中心とした売上の減少と荒利率の悪化等によりマイナス

■ 四半期別の推移

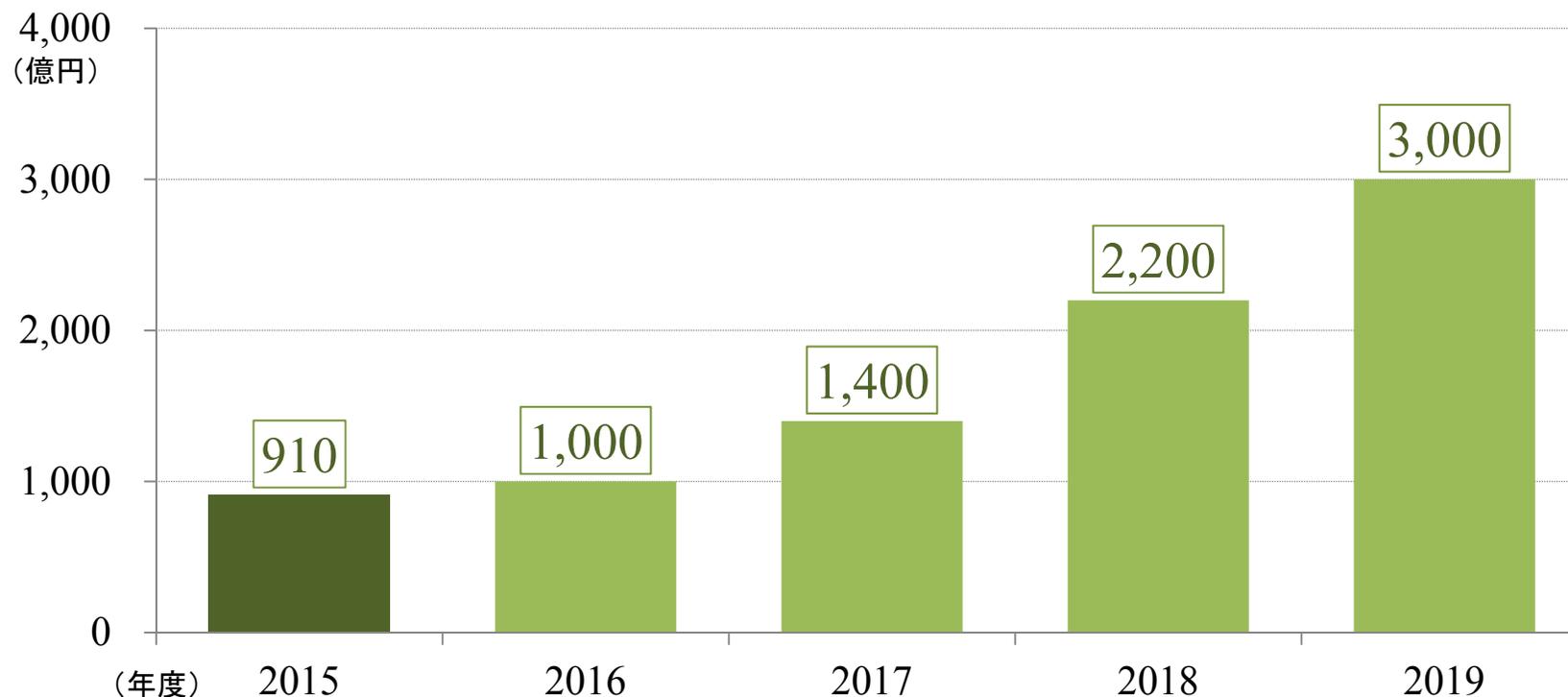


# 百貨店事業：SS営業利益計画修正

	計画		営業利益への増減要因
	当初	修正	
売上	▲1.1%	▲5.4%	▲67億円(当初:▲17億→9/30:▲84億) 主に婦人服を中心とした衣料品の 売上不振
荒利率	+0.2%	▲0.2%	▲22億円(当初:+11億→9/30:▲11億) 高荒利率の衣料品の売上不振等
販管費削減	+2.9% 削減	+5.6% 削減	+40億円(当初:+31億→9/30:+71億) 主に宣伝装飾費及び人件費の削減
営業利益計画 (前期差)	100億円 (25億円増)	50億円 (24億円減)	衣料品の売上不振と荒利率の悪化により ▲50億円の計画を追加

# オムニチャネル戦略:オムニ売上 19年度3,000億円を目指す

## ●オムニ売上 実績と計画



## ●オムニ売上の定義:「omni7」サイトを通じた売上

従来	今後
<ul style="list-style-type: none"> <li>・通販5社 (7NS, IY, SS, LOFT, AH)</li> <li>・配達2社 (IYネットスーパー, SMS)</li> <li>・ニッセン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通販6社 (7NS, IY, SS, LOFT, AH, 7CN)</li> <li>・配達3社 (IYネットスーパー, SMS, 7FS)</li> </ul>

※2015年度の実績は”今後”の定義にて算出した数値を記載しております

※7NS:セブンネットショッピング、AH:赤ちゃん本舗、SMS:セブン・ミールサービス、7CN:セブカルチャーネットワーク

当社が開示する情報の中には、将来の見通しに関する事項が含まれる場合があります。この事項については、開示時点において当社が入手している情報による経営陣の判断に基づくほか、将来の予測を行うために一定の前提を用いており、様々なリスクや不確定性・不確実性を含んでおります。

したがって、現実の業績の数値、結果等は、今後の事業運営や経済情勢の変化等の様々な要因により、開示情報に含まれる将来の見通しとは異なる可能性があります。